

一般社団法人新技術協会からの研修会開催のご案内

平成29年9月

各 位

一般社団法人 新技術協会
会 長 増本 健



『逞しく成長する企業を目指すマネジメント講座』
～想定外の事件や企業不祥事が多発し激変する企業環境を乗り越えるために～

いま、想定外の事件や企業不祥事などが多発しております。

『想定外』とは、これまで業界の常識や定説から外れて予期できなかった事態であり、事前のリスクの検討対象にもならなかった事態を言います。

だが、それらは本当に想定外の事態だったのでしょうか。いま起こっている想定外だといわれる事態を考えてみますと、大いに疑問がわいてきます。

また、企業不祥事は、社歴の長い優良企業には無関係と言うのも間違いです。

これを機会にこれからの経営課題を総点検して、その対応策を多面的な視点から、具体的に討議し、逞しく成長する企業のマネジメント方策を考えてみます。

講師は、技術経営の知識の周知と普及に永年にわたり携わってまいりました飯沼光夫先生（千葉商科大学・名誉教授）にお願いして、新たに「逞しく成長する企業を目指すマネジメント講座」を計画しました。

平成29年11月10日（金）を第1回目として毎月1回（原則第2金曜日）、全10回にわたって開講致します。

毎回参加者による討議の時間を設けております。活発な意見交換により講義の内容をより深く理解していただき実践に役立てることができるようになっております。

是非とも、企業の皆様の多数ご参加をお待ち致しております。

【実施要領】

1. 期 間 : 平成29年11月～平成30年8月 (全10回)
第1回 開催 平成29年11月10日(金)
毎月1回(原則として第2金曜日開催)
2. 開催時間 : 14時～16時30分(2時間30分)
講義 : 2時間
討議 : 30分
3. 会 場 : 科学技術振興機構(JST)東京本部
東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
科学技術振興機構(JST)東京本部別館
東京都千代田区五番町7 K's五番町
4. 合宿研修 : [日時] 平成30年1月12日(金)14時～13日(土)12時
(第3回) [場所] ホテルニューアカオ熱海 を予定
5. 資 料 : 毎回講義資料や参考資料を配布いたします。
5. 参加費 : 1名につき25万円(全10回 合宿研修費を含みます。)
(申込後、新技術協会より請求書をお送りさせていただきますので、
指定の口座へお振り込みをお願い致します。)
6. 申込先 : 一般社団法人 新技術協会
担当 : 中里京子、山口和雄
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24
湯島ベアビル9階
TEL 03-3868-2077 / FAX 03-3868-2050
Eメール shingikyou@shingikyou.or.jp

『逞しく成長する企業を目指すマネジメント講座』 (全10回)
～想定外の事件や企業不祥事が多発する企業環境を乗り越えるために～

講師：飯沼光夫（千葉商科大学名誉教授）

第1回目：『開講に当たり』

11月10日(金)

参加者と講師により、これからの討論課題に対する期待とそれぞれの問題意識等についてフリートーキングを行う。

第2回目：『想定外』の事態へのリスク・マネジメント方策

12月8日(金)

『想定外 (unthinkable)』と言われることを、そのままに受け入れていることはありませんか。経営課題として、考え直す必要があると思います。『想定外』を想定外にしないマネジメントの考え方を議論します。

現在、全く政治経験のない経営者として成功したトランプ氏のアメリカ大統領就任が『想定外』の代表例として話題になりました。このほかに数多くある想定外の事例を通じて、如何にしたら『想定外』が『想定』できるようになるのか、考えてみます。

第3回目：講座参加者のグループ討議による『日本企業を取り巻く想定外の環境変化の中に新しいビジネス・チャンスを探る』研修

合宿研修
1月12日(金)
～13日(土)

日本には、昔から『風が吹けば、桶屋が儲かる』と言う奇想天外な発想があります。この発想の仕方を参考に想定外の因果関係を想定し、脅威を好機に変えることの出来る発想の訓練とそれによる新ビジネスの提案をしてみます。

第4回目：今、なぜ多様な企業不祥事が多発しているのか。その根源を探る

2月8日(金)

戦後日本の輝かしい産業歴史を創ってきた名門企業の三代にわたる『不適切会計』による業績悪化と巨額の赤字発生の結果、経営破綻に陥っている。現在、経営再建中の名門企業は、2016年度の四半期連結決算(米国会計基準)を記載した報告書を金融庁に提出した。監査法人は、決算の妥当性を判断しない『意見不表明』としている。

会計監査には、『適正』、『限定付き適正』、『不適正』、『意見不表明』の4段階があり、一般的には、『適正』が普通である。現在、ほかにも『多様な形態の企業不祥事件』が多発している。その発生原因を詳細に分析し、一般企業への教訓を拾い出します。

第5回目：日本にとって『喫緊の課題』に対する企業としての取り組み方を探る

3月9日(金)

目前に迫る日本だけに起きている、急激な人口減少・少子超高齢化、晩婚化、介護離職、労働人口の急減少、社会保障制度の破綻、都市圏への人口集中、地方自治体の破綻などの『大異変』。これらへの対応を、企業の立場から考えてみます。

この日本の状況が、本当に深刻な経営課題になっていないのではないかと。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2065年に日本の総人口は8,808万人まで減少すると言う。しかも、人口の4割が高齢者。その対策は、今手を打たないと手遅れになることは明らかである。当然のことながら、地球規模のテロ多発や地球温暖化等の環境変化、エネルギーや食糧・資源などの需給問題、防ぎきれないサイバー攻撃への対応などの問題も、同時に考慮して行かなければならない。

第6回目：『グローバルなダイバーシティ・マネジメント』の方策

4月13日(金)

『ダイバーシティ(多様性)・マネジメント』がこれからの経営課題となっております。これはこれまでの年功序列人事や終身雇用等の日本型経営の大転換を迫るものです。だが、グローバルな視点から、何が最大の課題なのかが明確に認識されていないのではないかと。現在は企業の女性の経営参加率の低さに焦点が当たり過ぎているようですが、『ダイバーシティ』がグローバル経営の基本であることから、その本質的な問題を明らかにする。

第7回目:グローバルな人々から評価される『独創的商品開発マネジメント』の方策 5月11日(金)

グローバルな世界で日本が生んだ独創的技術で『独創的商品の新規市場開拓』をした事例に学び、独創性の本質を考える。しかし、独創的新商品の新規市場開拓には、並々ならぬ発想力と行動力と不屈の精神が必要となる。このような時、人は簡単に「それならば『ベンチャー』を盛んにしろ。」と言うが、『ベンチャー』の成功はなかなか難しい。

第8回目:第1次産業革命から今日の産業革命までの歴史的経緯を知り、

これからの『未知の新しい産業革命』への取り組み方を探る 6月8日(金)

現在、『第4次産業革命』が起こっているという認識が政治家や産業人や有識者の中で高まってきている。これは2011年にドイツが提唱し国を挙げて取り組み始めた『Industrie 4.0』プランがきっかけとなっている。その後、2012年に米国のGEがドイツと同様の『Industrial Internet』構想を発表した。要するに、モノとデータが融合する21世紀の産業革命構想なのである。わが国では『IOT』(internet of things)という言葉で表現している。だが、人類にとって、歴史的に全く新しいどのような革命的なことが現在起りつつあるのかについて明確に論じているものが無い。そこで、これまでの産業革命の歴史を、新しい視点で見直して、その革命の意義を検証する。

第9回目:好機と脅威を同時にもたらす『グローバルなIOT技術』を

使いこなすマネジメント方策

7月13日(金)

工業社会(もの)から情報社会(情報:インテリジェンス)への急進展によって、社会・産業の構造や個人の生活の価値観・生活スタイルなども大きく変質してきている。その変革をもたらした産業技術が情報通信技術、半導体集積技術、液晶・有機EL技術、ロボット技術、ネットワーク技術、人工知能技術(AI・深層学習:ディープ・ラーニング)、IOT技術などである。これと同時に、発生したのが情報セキュリティの問題とサイバーテロの問題がグローバルに展開されていることである。さらに、改正資金決済法の施行により、日本でも仮想通貨(ビットコイン)が決済手段として認定された。

去る5月12日、『ランサム(ransom:身代金)ウェア』と呼ばれるウィルスによる世界的な大規模サイバー攻撃が確認されている。米・英・露・日など約100ヶ国・地域で約7万5,000件の被害が出たと報じている。これは米国マイクロソフト社の基本ソフトの欠陥をつかれたものだった。

一方では、公的機関や企業の保有する個人情報や機密情報等が外部に大量に流出する事件が多発している。さらに、これらのサイバー攻撃の手段が戦争の手段として重要視され脅威となっている。情報は他社との優越性を示す資産だが、同時に企業を丸裸にする脆弱性を持っており、これをどのようにマネジメントしていくかが、これからの最も重要な経営課題であろう。さらには、大規模のフェイク(fake:偽)情報も、意図的に流される危険もある。本物と偽物とを見分ける能力も問われる。

第10回目:『まとめ』

8月10日(金)

これまでの講義と議論の経験を踏まえて、参加者から新しい問題意識や、新しい討議アイデアなどについて発表していただき、討議を行います。

【講師略歴】

千葉商科大学・名誉教授 飯沼光夫

- 1937年 横浜生まれ。
- 1959年 東京都立大学(現首都大学東京)工学部工業化学科(電気化学専攻)卒業
- 1963年 産業能率短期大学生産能率科(生産管理士)卒業
- この間 横浜ゴム、三笠電機製作所(電子部品)で技術開発・商品開発業務に従事
- 1971年 (社)科学技術と経済の会に奉職・調査部長
- 1974年に技術経営会議(議長・小林宏治NEC社長)を創設後、事務局長に就任し、会員企業の協力を得て技術経営に関する調査研究を多数実施、その成果の普及に努めた。
- 1986年 千葉商科大学商経学部・大学院商学研究科に移り、経営学科の専門科目である『管理工学』、『意思決定論』、『情報資源管理論』、『産業技術史論』を担当した。その間に、商経学部経営学科長を務める。2007年、定年退職後、名誉教授に就任。

飯沼光夫氏は、当協会前身の新技术懇談会から、講演会やセミナーの講師や受託調査研究などの調査研究員として活躍している。

また、科学技術会議専門委員や市川市行財政改革懇話会会長など公的機関の委員などを歴している。

著書には、

『シナリオライティング入門』(日本能率協会)

『新規事業開発のための情報収集と活用法』(日本能率協会)

『シナリオライティング法による経営プランニング・ガイド』(日本能率協会)

『情報経済論』(共著・有斐閣)

『企画の基本』(共著・日本能率協会)

『技術者の動機づけ』(共著・マネジメント社)

『ハイテクノロジー・マネジメント』(共著・日刊工業新聞社)など。

その他著書、論文、講演など多数。

平成29年 月 日

『逞しく成長する企業を目指すマネジメント講座』

【参加申込書】

フリガナ
御社名

所在地 〒

TEL

FAX

E-MAIL

所属役職名

フリガナ
御出席者名

(当研究会への参加を勧められた方の役職及び氏名)

役職：

氏名：